

JP58-54191U

(57) Claims

A headphone device characterized in that a locking protrusion having a locking claw in the vicinity of a holding protrusion provided on the side of a holder so as to hold a headphone unit is provided in a protruding manner, and a one-looped connection cord connected to the headphone unit is locked to the holding protrusion or the locking protrusion while being sandwiched between the holding protrusion and the locking protrusion.

(Partial translation of detailed description)

In the drawing, reference numeral 1 denotes a headphone device. The headphone device 1 has a configuration in which left and right headphone units 2 and 2 can be adjustably arranged at positions of both ears of a human body. That is, the headphone device has a configuration in which both left and right ends 3a and 3b of a headband 3 supported to a head are connected to holder support members 4 and 4 provided with slide grooves 4a and 4a used to allow both ends 3a and 3a of the headband 3 to be slidable. For example, the headband 3 is obtained by forming a stainless plate in a circular-arc shape. The headband 3 is provided with stoppers 5 and 5' serving as protrusion portions for regulating a movement range and preventing a removal of the holder support members 4 and 4. In addition, the left and right holder support members 4 and 4 are integrally formed with

cylindrical holders 6 and 6, each having a bottom for supporting the headphone unit 2. In addition, the center portion of the holder 6 is provided with a holding protrusion 9 which protrudes therefrom so as to hold the headphone unit 2.

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭58—54191

⑤ Int. Cl.³
H 04 R 1/10
H 05 K 7/00

識別記号
1 0 1

庁内整理番号
6507—5D
6679—5F

⑬ 公開 昭和58年(1983)4月13日

審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ ヘッドホン装置

⑰ 実 願 昭56—148982

⑱ 出 願 昭56(1981)10月6日

⑲ 考 案 者 森永健一

八尾市北久宝寺1丁目4番33号
星電器製造株式会社内

⑲ 考 案 者 藤原悟

八尾市北久宝寺1丁目4番33号
星電器製造株式会社内

⑳ 出 願 人 星電器製造株式会社

八尾市北久宝寺1丁目4番33号

㉑ 代 理 人 弁理士 鈴江孝一 外1名

㉒ 実用新案登録請求の範囲

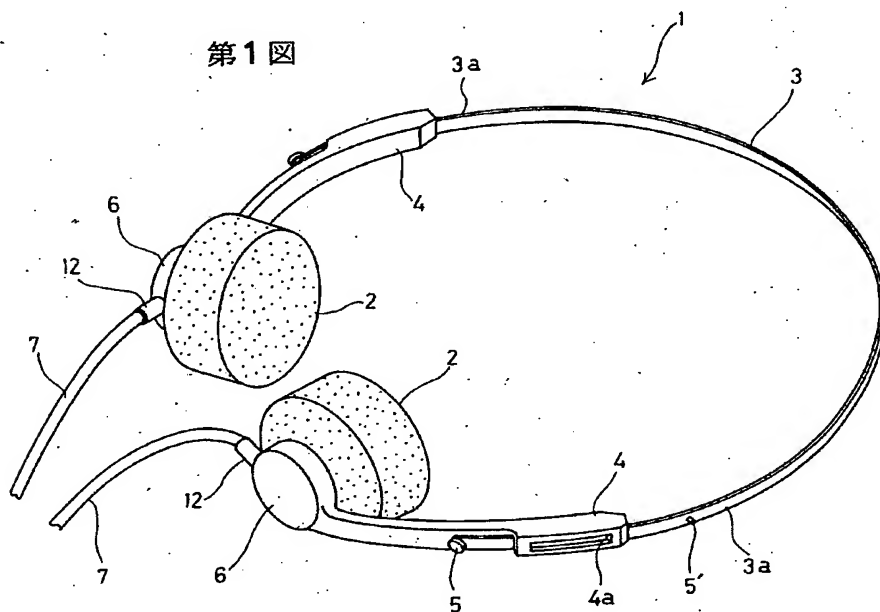
ヘッドホンユニットを保持すべくホルダー側に設けた保持突部の近傍に係止爪を有する係止突部を突設し、1ループした上記ヘッドホンユニットに接続される接続コードを上記保持突部と上記係止突部とに挾持された状態で、その保持突部または係止突部に係止させていることを特徴とするヘッドホン装置。

図面の簡単な説明

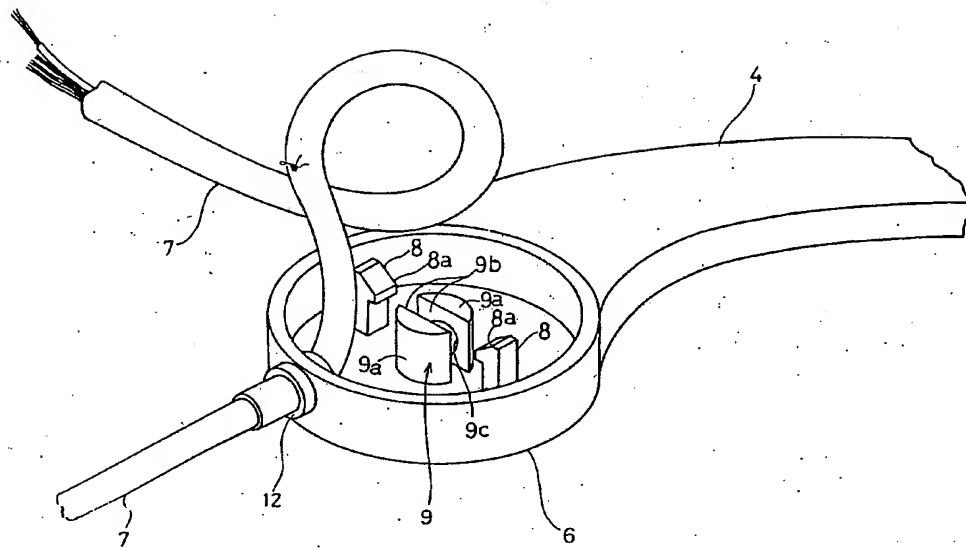
図面は本考案の一実施例を示し、第1図はヘッドホン装置全体を示す斜視図、第2図はホルダーの斜視図、第3図はヘッドユニットの保持状態を解いたホルダーを示す斜視図である。

1……ヘッドホン装置、2……ヘッドホンユニット、6……ホルダー、7……接続コード、8……係止突部、8a……係止爪、9……保持突部。

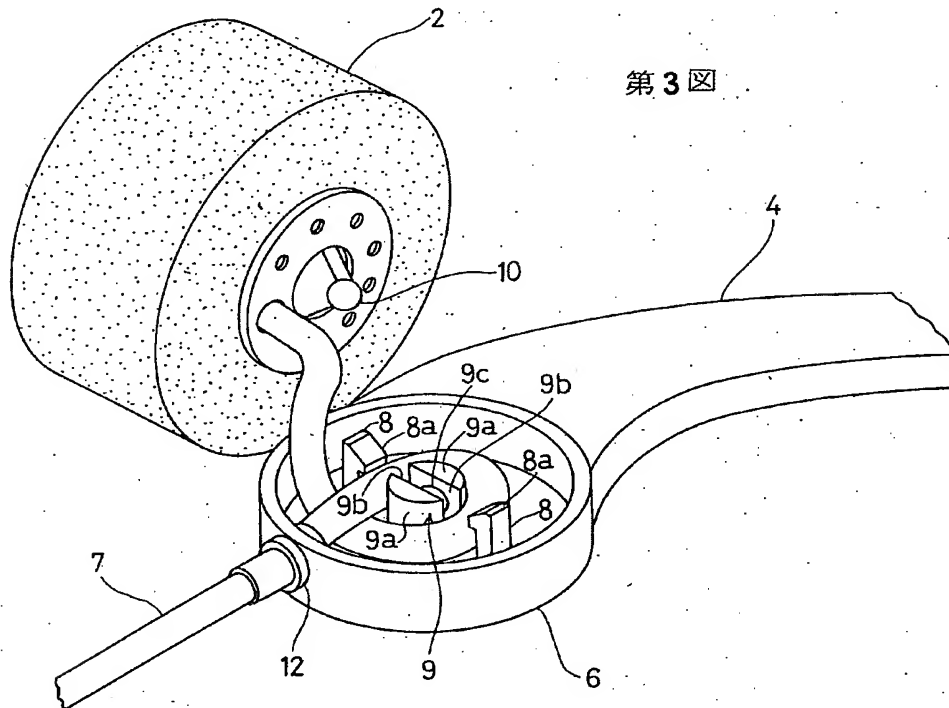
第1図



第2図



第3図



公開実用 昭和 58— 54191

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U)

昭58—54191

⑫ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和58年(1983)4月13日

H 04 R 1/10

1 0 1

6507—5D

H 05 K 7/00

6679—5F

審査請求 未請求

(全 頁)

⑭ ヘッドホン装置

⑮ 考 案 者 藤原悟

八尾市北久宝寺1丁目4番33号
星電器製造株式会社内

⑯ 実 願 昭56—148982

⑰ 出 願 昭56(1981)10月6日

⑱ 出 願 人 星電器製造株式会社

⑲ 考 案 者 森永健一

八尾市北久宝寺1丁目4番33号

八尾市北久宝寺1丁目4番33号

星電器製造株式会社内

⑳ 代 理 人 弁理士 鈴江孝一 外1名



明 細 書

1. 考案の名称

ヘッドホン装置

2. 実用新案登録請求の範囲

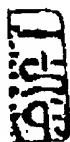
ヘッドホンユニットを保持すべくホルダー側に設けた保持突部の近傍に係止爪を有する係止突部を突設し、１ループした上記ヘッドホンユニットに接続される接続コードを上記保持突部と上記係止突部とに挟装された状態で、その保持突部または係止突部に係止させていることを特徴とするヘッドホン装置。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、接続コードの係止構造を改良したヘッドホン装置に関する。

近年、小型のヘッドホン装置においては、内外から極小化、簡素化など機能美の追求に強い要望がある。

そして、この種のヘッドホン装置は、接続コードをヘッドホンユニットを保持するホルダー内で、たとえば一般に云うところの玉結びにして、



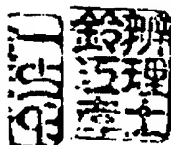
引張り方向の外力を受けても、ホルダー内壁に玉結状態の接続コードが圧接されて、接続コードとヘッドホンの接続部にその外力が直接伝わらない構造になつている。ところが、このような接続コードを玉結びにしてホルダーに固定した小型のヘッドホン装置の場合、玉結びの接続コードは、接続コードの肉厚の3倍から4倍の肉厚になりかさ高になるため、その玉結びの接続コードがホルダーの外部に露出しないように、ホルダーの厚みを大きくとる必要があり、ホルダー部の小型、薄形化の大きな障害となつていた。また組立時においては、接続コードを玉結びする手間を要し、左、右の接続コードの玉結び部の位置合せに熟練を必要とする等作業性を悪くしていた。

本考案は上記の事情に着目してなされたものであり、その目的とするところは、ホルダーの厚みを可及的に薄くでき、かつ組立時の作業性が著しく向上するヘッドホン装置を提供するものである。



以下、本考案の一実施例を図面を参照して説明する。

図中 1 は、ヘッドホン装置である。このヘッドホン装置 1 は、左、右のヘッドホンユニット 2, 2 を人間の両耳の位置に調節できるようになつている。すなわち、ヘッドホン装置は、頭部に支持させるヘッドバンド 3 の左、右両端 3a, 3a に、このヘッドバンド 3 の両端 3a, 3a を摺動自在にするスライド溝 4a, 4a を形成したホルダー支持部材 4, 4 を連結している。前記ヘッドバンド 3 は、たとえばステンレス製板を円弧形状に成形したものである。このヘッドバンド 3 には、ホルダー支持部材 4, 4 の抜け止めと移動範囲を規制する突部であるストッパ 5, 5' が設けられている。そして、左、右のホルダー支持部材 4, 4 には、ヘッドホンユニット 2 を保持する有底円筒形状のホルダー 6, 6 が一体に設けられている。そしてこのホルダー 6 の中央部にヘッドホンユニット 2 を保持する保持突部 9 が突設されている。

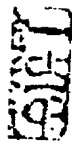
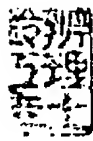


この保持突部 9 は一定の間隙を有して相対向する断面半月状の 2 本の突起体 9 a, 9 a によつて構成されるもので、互いに対向する対向面 9 b, 9 b に嵌合孔 9 c を設け、この嵌合孔 9 c にヘッドホンユニット 2 の背面部側に突設した球形の嵌合突部 10 を嵌合させて、ヘッドホンユニット 2 を突起体 9 a, 9 a によつて首振り自在に保持するようにしている。

また上記保持突部 9 の近傍にこの保持突部 9 を挟んで互いに対向する 2 本の係止突部 8, 8 を突設し、この係止突部 8, 8 の各先端部に係止爪 8 a, 8 a を一体に設けている。

ところで、図中 7, 7 はヘッドホンユニット 2, 2 に接続される接続コードであるが、この接続コード 7 を第 3 図に示すように上記保持突部 9 の周りに 1 ループさせ、このループされた接続コード 7 を上記係止突部 8 と上記保持突部 9 とによつて、挟持させた状態で係止するようにしている。

尚、上記接続コード 7 はホルダー 6 に嵌着した

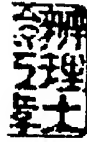


プッシュ 1 2 を介してホルダー 6 外に導出される。

このような構成にすることにより、接続コード 7 をホルダー 6 側に係止させる場合は、接続コード 7 を第 2 図に示す如く 1 ループさせ、このループした接続コード 7 を保持突部 9 の周りに巻装すべく係止突部 8 と保持突部 9 間に圧入すればよい。

このようにすれば接続コード 7 は係止突部 8 と保持突部 9 とによつて挾持され、しかも保持突部 9 の回りに 1 ループしているため、接続コード 7 に引張り方向の外力が作用しても、係止突部 8、8 と保持突部 9 とによつて確実に係止され外力がヘッドホンユニット 2 側にまで及ぶようなことがなく、接続コード 7 がヘッドホンユニット 2 側で断線するような虞れがない。

ところで本考案では接続コード 7 を 1 ループさせるだけでホルダー 6 側に係止できるようにしているため、接続コード 7 の係止によつて生ずるコードの占有幅が接続コード 7 の外径寸法



の 2 倍分で済み、ホルダー 6 の厚みを従来のものに比して小さくすることができる。

また、接続コード 7 の係止作業はループした接続コード 7 を係止突部 8 と保持突部 9 間に圧入するだけの作業であり、組立時の作業性が著しく向上するものである。

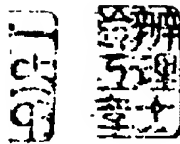
また係止突部 8 の先端部に係止爪 8 a を設けているため、係止突部 8 と保持突部 9 間に挟持された接続コード 7 が容易に離脱するようない。

尚、上記実施例においては係止突部 8 を 2 本設けるものについて説明したが、本考案は 2 本に限らず、1 本のみ設けるものであつても、或いは 2 本以上設けるものであつてもよい。

係止突部 8 を 1 本のみ設けるものでは例えば接続コード 7 を上記係止^突部 8 の周りに 1 ループさせ、ループした接続コード 7 を係止突部 8 と保持突部 9 とによつて挟持させた状態で係止するようにしてもよい。



また更に係止爪を有する係止突部をホルダー



の内周壁近傍に設け、この係止突部の周りに接続コードを1ループさせて、この係止突部とホルダー内周壁部によつて挟装させた状態で係止することとも考えられる。

4. 図面の簡単な説明

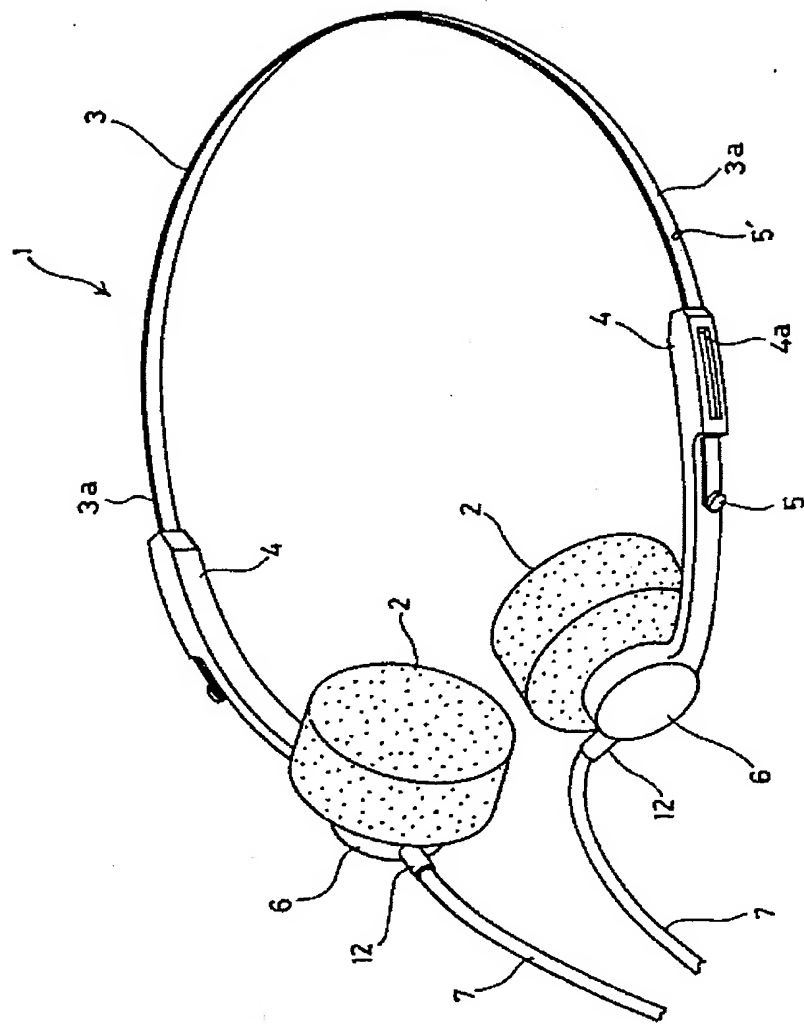
図面は本考案の一実施例を示し、第1図はヘッドホン装置全体を示す斜視図、第2図はホルダーの斜視図、第3図はヘッドホンユニットの保持状態を解いたホルダーを示す斜視図である。

1…ヘッドホン装置、2…ヘッドホンユニット、6…ホルダー、7…接続コード、8…係止突部、8a…係止爪、9…保持突部。

実用新案登録出願人 星電器製造株式会社

代理人 弁理士 鈴 江 孝 一

第1図

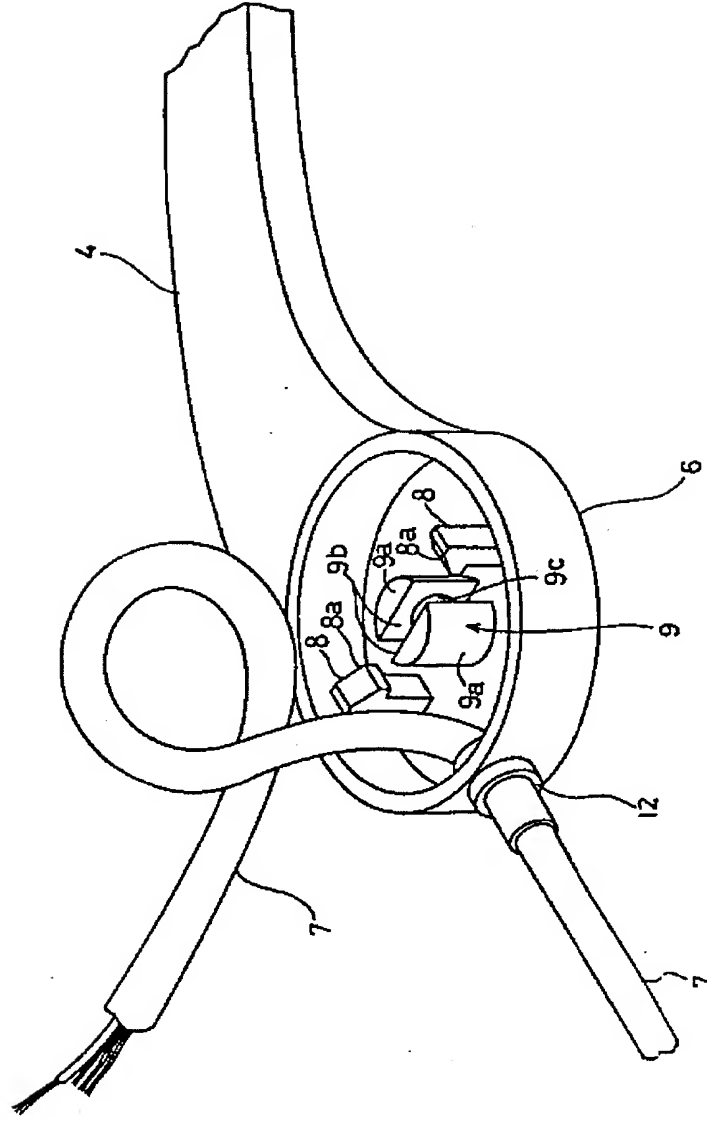


798

実開58-54191

代理人 森田士 林江幸一

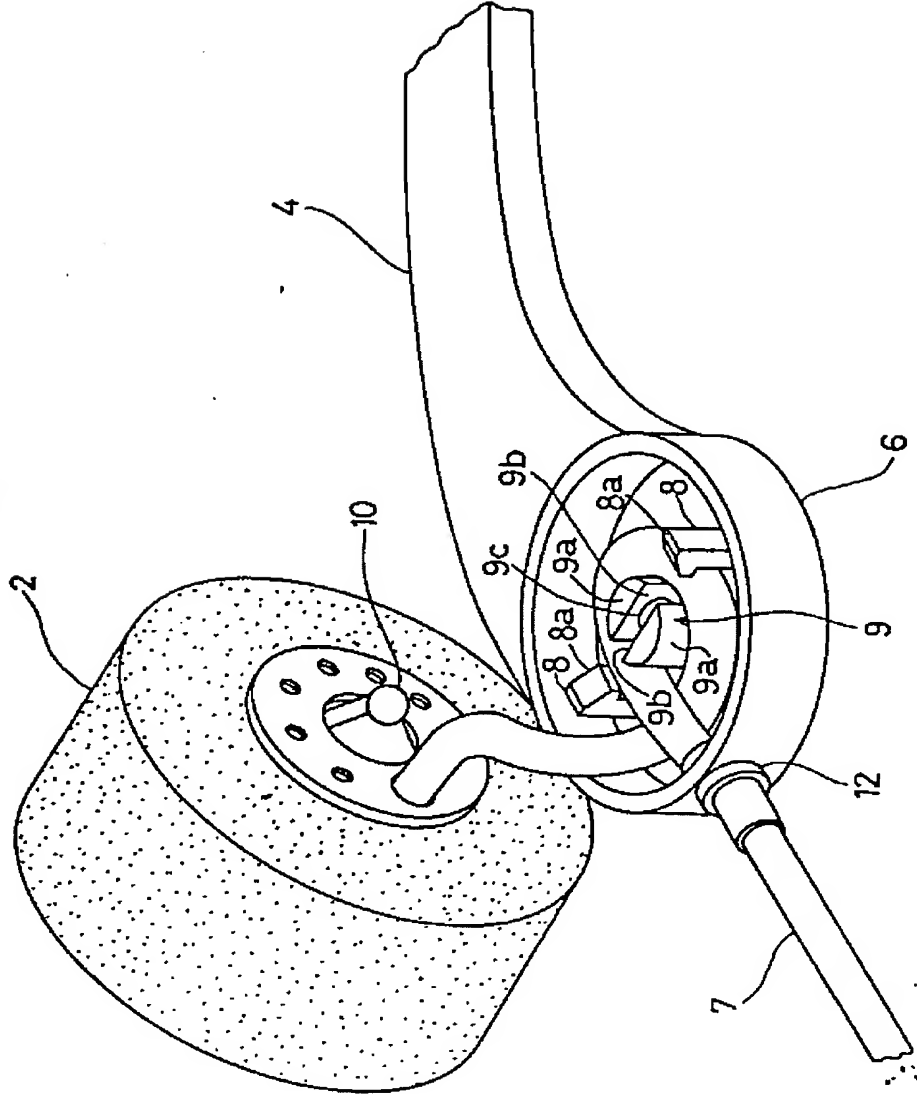
第 2 図



799
実開58-54191

代理人 弁理士 林江幸一

第 3 図



800

実用58-54191

代理人 金澤士 株式会社